

真夏の夜の花

月見草、月下美人、夜香花・・・夜に花が咲き、強い香りを放つことからつけられた名を持つ花は、いくつもあります。夜に花が咲くのが特別なことのように感じるのは、人の生活が昼間を中心に組み立てられているからでしょう。

一つの花が咲いている時間は短く、時には咲いてから半日でしぼんでしまいます。どんな花でも特定の時間に咲き、蜜を出し、香りを放ちます。それが昼のこともあれば、夜のこともあるのです。

温帯では、目立つ花、香る花は虫媒花です。気温の高い夏には、夜に活動的な昆虫がたくさんいるので、彼らに食事を提供すれば、花粉を運んでもらえます。熱帯・亜熱帯の夜には、コウモリ媒花も多数咲きます。



ネムノキ



カラスウリ



メマツヨイグサ

日中も咲いて昆虫がきていますが、夕方から夜になると強く香る花があります(雲が厚く、薄暗い雨の日には、昼間に香ることがあります)。昼は昼の昆虫を引き付け、夜は夜の昆虫を引き付ける、24時間働く花なのかもしれません。 ↓



イケマ



ヤマユリ

夜飛ぶ虫の世界
強力な捕食者である鳥が休み、狩りパチも動かなくなる夜、昆虫にとって安全な世界が生まれます。けれども夜飛ぶ虫が増えると、その虫を食べる動物も現れて、期待ほど安全ではなくなります。

花が咲くのは花粉を運ぶ虫のため、虫の活動時間に合わせて咲き、蜜を出し、香りを放ちます。夜飛ぶ虫は弱い光を集めるために、ライトを当てると、目が赤やピンクに光ります。わずかな光でも見える色は、白か、白に近い色です。また、光が弱い世界では、香りは重要な情報源です。

科学園では夜の観察はできませんが、近くに夜咲く花があるのなら、花と昆虫の観察を試みてください。夜は人にとっても情報の得にくい時間なので、安全には十分配慮の上で観察しましょう。

